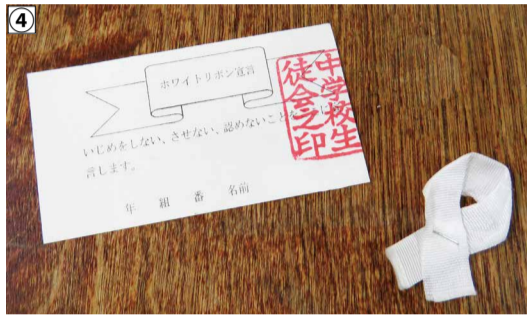
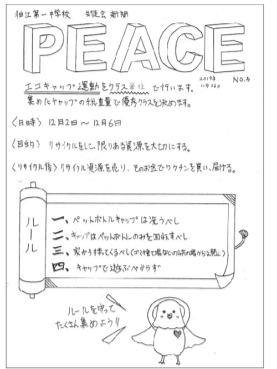
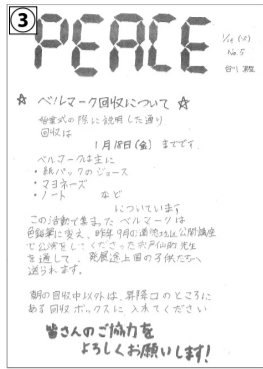


# カンボジアに色鉛筆を送ろう

## 東京・狛江市立狛江第一中が活動復活



- ①左から白川真聖さん、吉川咲希さん、中間香歌さん、大内陽果さん、河埜亮一先生
- ②職員室前のベルマークボックス。目標達成後も、マークを入れてくれる人がいる
- ③生徒会新聞「PEACE」
- ④ホワイトリボンと運動の宣言書

東京都狛江市の市立狛江第一中学校(吉田知弘校長、生徒392人)が、集めたベルマークで色鉛筆12缶を購入しました。カンボジアの子どもたちを支援するため、長らくお休みしていたベルマーク活動を、生徒会役員が復活させました。

きっかけは2018年秋の「道徳授業地区公開講座」。カンボジアなど発展途上国の子どもたちの厳しい現状を学びました。その際、支援活動をしている講師に「ベルマークで備品を買って送るという方法もある」とヒントをもらいました。

その時点で同校のベルマーク活動は止まっており、ベルマーク預金も2011年に東日本大震災の友愛援助で寄付して使い切っていました。職員室前に回収箱がありましたが、マークが貯まったまま放置された状態でした。

そこで、生徒会役員が中心になって収集活動を再開しました。当時のメンバーは会長の白川真聖さん、副会長の松本桃華さん、吉川咲希さん、庶務の大内陽果さん、中間香歌さんの5人。新しい回収箱を昇降口に置き、朝礼や生徒会新聞で

生徒に協力を呼びかけました。仕分け・集計は先生も協力しました。

その結果、元々貯まっていたマークと合わせて10,584点になりました。購入品として色鉛筆を選んだのは「木で出来ている色鉛筆なら使えなくなったとき燃やすことができるから」だそうです。地区公開講座の講師を務めた先生を通してカンボジアの子どもたちに届けます。

狛江一中の生徒会活動は、エコキャップの収集や緑の羽根募金、地域の防災訓練への参加など多岐にわたります。中で

も特筆すべきは平成23年から始まったホワイトリボン運動。「いじめをしない、させない、認めない」というスローガンを掲げ、宣言書を書き、ブレザーやバッグにリボンをつける運動です。模範的で優れた取り組みとして都から2回も表彰を受けています。

今回、カンボジアに色鉛筆を贈るという大きな目標を達成した皆さん。今後について質問すると、「今度は自分たちの学校のためにやってみよう」「私なら冷水機が欲しいなあ」と話しました。

# ベルマークを集めて教育支援をしよう

## 高松市に協議会が発足

香川県高松市中部の多肥(たひ)地区に「ベルマークを集めて教育支援をしよう協議会」が結成され、活動を始めました。会長の森英樹さんと理事長の松野安伸さんに話を聞きました。

森さんは市立多肥幼稚園の園長。過去に教員として勤めた11の学校全てがベルマーク運動に参加していたそうです。少子化や共働きが進み、PTA活動やベルマーク運動にも影響が出る中、「組織をつくって運動の活性化につなげていきたい」と考えました。

松野さんはクラレトレーディング(ベルマーク番号30)の製品を販売する香川菅公学生服の社長。一般社団法人「教育コミュニティ」を作って教育支援活動も展開しています。森さんは旧知だった松野さんに協力を要請。

さらに自治会などにも参加を呼びかけ、昨秋に協議会を立ち上げました。

2人は中四国地方を中心に店舗展開しているスーパーのハローズにも声をかけ、同社が店で集めたマークの一部を寄贈してもらいました。そこで「地域の高齢者の力をお借りしたい」とボランティアを募集。70～80代の約30人が仕分け・集計作業をしました。みんな初めての作業で、多肥幼稚園PTAのベルマーク部員が先生役として加わりました。2回にわたって作業した結果、マークは1万9621点ありました。

協議会は今後、ハローズとの協力関係を続け、活動を通じて集めたマークは、小規模校や被災校の支援に使われる予定です。



右から「ベルマークを集めて教育支援をしよう協議会」の森英樹会長、松野安伸理事長

# 「少しでも役に立てば」90歳が仕分け

## 「ベルボラ愛媛」の活動

愛媛県でボランティアとしてベルマークを集め、被災校や県内の特別支援学校へ寄贈しているグループ「ベルボラ愛媛」。メンバーは中村真治さん、清水政子さん、和田いづみさんの3人ですが、仕分け・集計の7割ほどを担っているのが清水さん。1929(昭和4)年生まれの90歳です。

中村さんが会社別に分けて届けたマークを、清水さんはハサミで整え、慣れた手つきで点数ごとに仕切りの入った箱へ仕分けしていきます。小さなマークは拡大鏡で点数を確認します。仕分け後は「ベルボラ愛媛」特製の台紙に両面テープで貼っていきます。

「朝5時半に起き、掃除と洗濯の後、すぐに作業に入

ります」と清水さん。マークがあればとことん続けるそうで、多い時には1日1500枚ほど仕分けします。作業は面白く、やればやるほど頑張れるそう。「少しでも役に立てたらええなあ、という思いで作業しています。本当に元気のもと。健康でいられる間は続けたいです」

「ベルボラ愛媛」は2008年に活動を始めました。「子どもたちのためにマークを捨てないで！」を合言葉に、市内の商店街や自治体の窓口などに回収箱を置かせてもらい、マークを集めています。西日本豪雨で地元の愛媛県が被災した際は、被害の大きかった大洲市と西予市の保育所に計50万点余を寄贈しました。活動開始以来の寄贈累計は約200万点になるそうです。



マークの仕分け作業をする清水政子さん